

# 介護現場革新会議

## 三重県におけるパイロット事業について

---

令和元年6月6日  
三重県医療保健部

# 三重県の基礎情報



面積：5,774.41km<sup>2</sup>

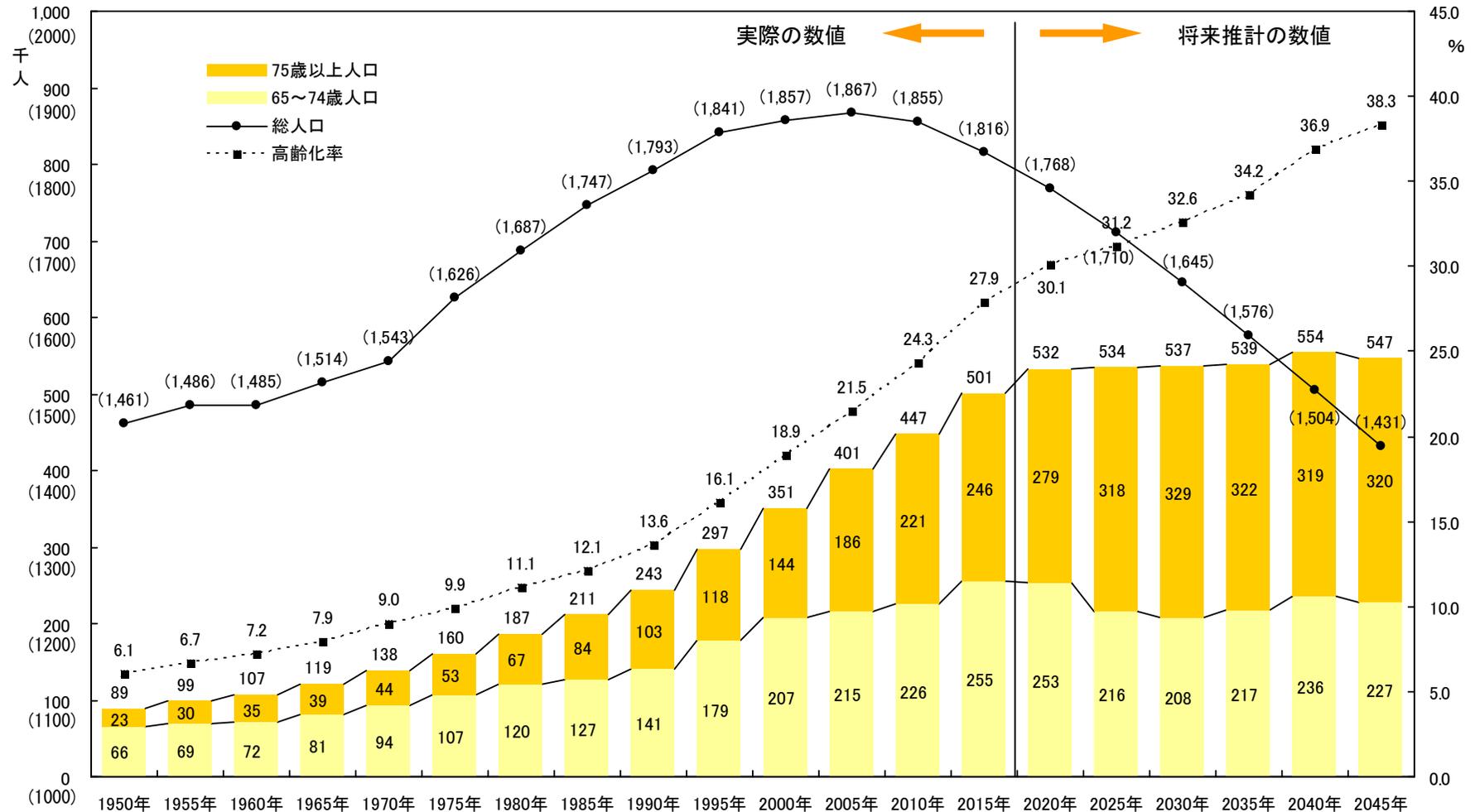
人口：1,790,376人  
(H30.10.1現在)

65歳以上人口：520,099人  
(H30.10.1現在)

市町：29 (14市、15町)

# 三重県の高齢化の推移と将来推計

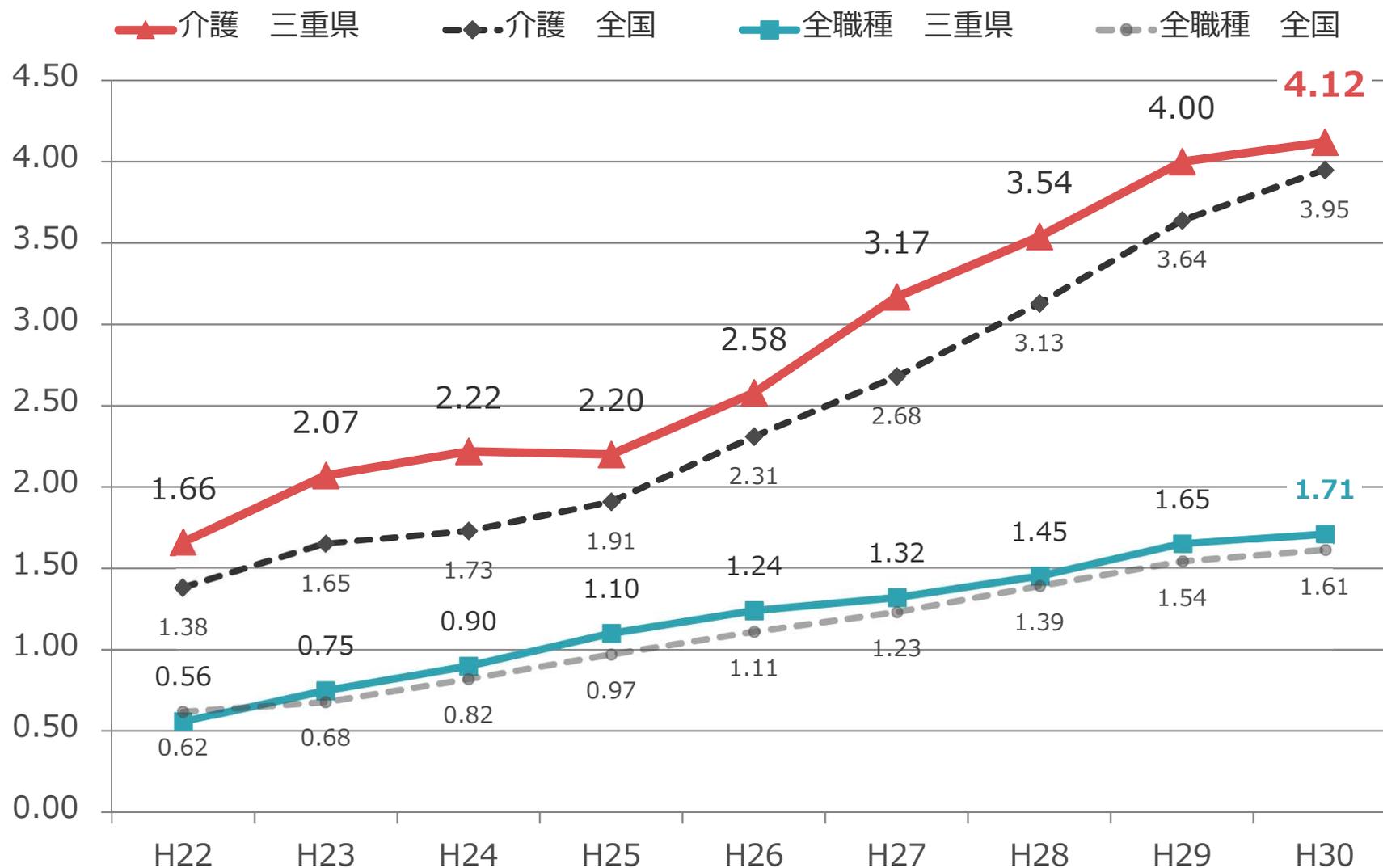
○ 三重県においては、2025年に向けて、75歳以上人口が急増する一方、総人口については、既に減少傾向が続いており、今後も減少していくことが見込まれる。



資料；2010年以前は総務省統計局「国勢調査」、2015年以後は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年3月推計）」

# 三重県の有効求人倍率

○ 三重県の有効求人倍率は全国に比べて高い水準にあり、平成30年度の三重県の介護関連職種の有効求人倍率は4.12倍となっている。



# 三重県介護現場革新会議 委員名簿

氏名	所属・役職
井上 翔太	三重県医療保健部長寿介護課 課長
大田 京子	三重県介護福祉士会 会長
近藤 辰比古	三重県老人福祉施設協会 会長
坂倉 英樹	日本認知症グループホーム協会 三重県支部支部長
松本 隆史	三重県老人保健施設協会 副会長
松本 利治	三重県社会福祉協議会 常務理事

(五十音順 敬称略)

# パイロット事業① 介護助手の効果的な導入方法の検討

- 三重県では、三重県老人保健施設協会が平成27年度から介護助手を他県に先駆けて導入。
- 今般、三重県老人保健施設協会のノウハウ、導入経験の長い多くの施設の協力、東京都健康長寿医療センター（社会参加と地域保健研究チーム（チームリーダー：藤原佳典氏））の専門的知見を結集し、**介護助手の効果的な導入方法を検討する。**

## 介護助手

地域の元気な高齢者を「介護助手」として育成し、介護の周辺業務を担っていただくことで、介護職員が本来の業務に専念できるようにするとともに、高齢者の就労先の確保と介護予防を図る取組。



## これまでの取組

### <県内の導入事業所数>

計44施設

〔老健(H27～)：30施設 特養(H29～)：12施設  
認知症GH(H30～)：2施設〕

### <導入支援>

介護助手の更なる普及のため、平成30年度に事業所向けのマニュアルを作成・公表（業務の切り出しや募集・就労の際のポイント等を記載）

### <全国的な広がり>

25都道府県で実施（H30.4現在、全老健調査）

## 効果的な導入に向けて

三重県老人保健施設協会の調査によれば、介護助手を導入した25の老健施設全体で、離職率の低下が見られる。



マニュアルを用いて介護助手の導入・定着を図りつつ、個々の施設において、介護助手をどの程度配置すれば、どのような改善(アウトカム)が期待できるかなど、**介護助手の効果的な導入方法を検討。**その成果を施設に周知する。



# パイロット事業② インカムを活用した介護業務の負担軽減

○県内でモデル施設として3施設（特養1施設、老健2施設）にインカムを導入し、**業務負担の軽減効果を把握する。**

## 介護ロボット・ICT

- 介護ロボットやICTについては、負担軽減効果が未知数・費用負担が大きい等の面から導入が進んでいない。
- 近年、県内で導入が進んでいるのは見守り機器のみであり、抜本的な負担軽減につながっているとは言えない状況。

## インカムの選定理由

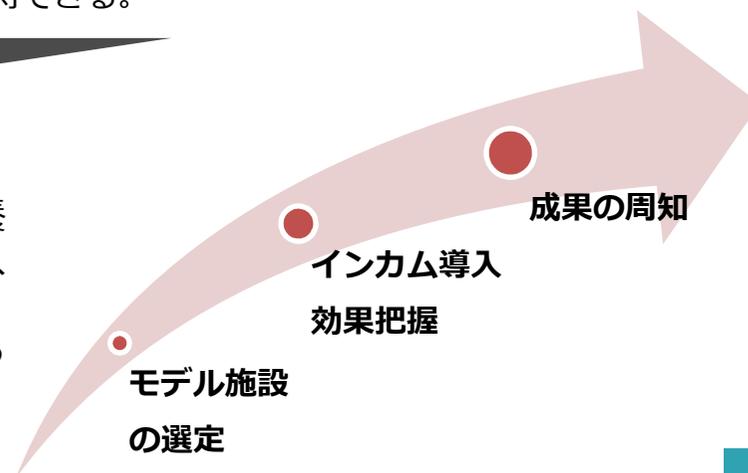
1. フロアが別の職員と会話する必要がある場合などに、**移動することなくコミュニケーションを取ることができる**
2. 携帯電話とは異なり、入所者の容体が急変した場合など、**緊急時でも作業を行いつつコミュニケーションを取ることができる**
3. 携帯電話とは異なり、**一度に多くの職員とコミュニケーションを取ることができ、チームケアの効率化に資するものである**
4. 使用方法が難しくない比較的安価な機器もあると想定され、**介護事業所にとって導入のハードルが低いと考えられる**

こうした特徴から、インカムの導入により業務負担がどの程度軽減されるのかが明らかになれば、多くの介護事業所への導入を図ることにより、介護業界全体の業務負担の軽減を図ることが期待できる。

## 介護業務の負担軽減に向けて

実際にインカムを導入するモデル施設として、県内で特養1施設、老健2施設の計3施設を選定し、一定期間タイムスタディを実施する。

**インカムの導入による介護業務の負担軽減効果を把握**するとともに、その成果を施設に周知する。



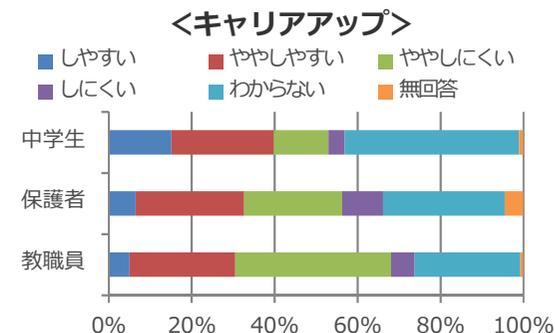
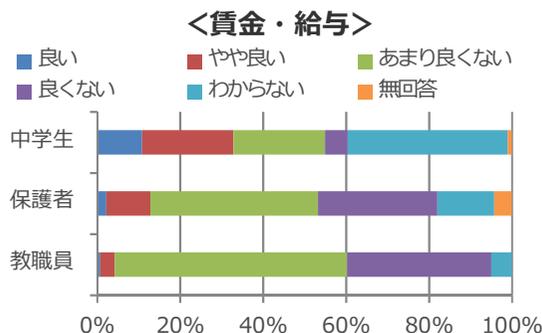
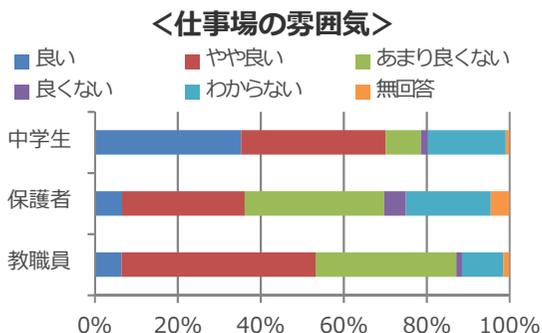
# パイロット事業③ 介護現場の魅力発信の強化

- 介護現場の魅力や、職員が生き生きと働く姿などが、学生・若者に加え、保護者・教職員にも伝わるよう、**関係者の連携による新たなアプローチを含めた多面的な取組を実施。**

## 福祉の仕事のイメージ

※平成30年度 福祉の仕事に関する意識調査 中学生分より抜粋（三重県福祉人材センター）

- 福祉の仕事のイメージは、中学生よりも保護者・教職員の方が低い傾向。一部の項目については、「わからない」との回答も多い。



## 対策の方向性

正しい情報発信の強化

保護者・教職員の理解促進

従事者からの働きかけの強化

## 魅力発信の強化に向けて

### ①学校訪問等の強化

- 魅力ある取組を行っている事業者ほど多忙で、直接的に魅力を伝えられる機会が少ないことから、**魅力ある取組、生き生きと働く職員の姿、家族の「ありがとう」の言葉などを収録したPVを作成。**
- また、より多くの人々が介護福祉士を目指してもらうよう、**近年の処遇改善や学費支援の状況をPRするためのリーフレットを作成。**
- さらに、**介護福祉士の若手有志が今般、新たに結成した「次世代会」により職員の活力や熱意を直接伝える取組を行う。**
- これらを学校訪問、ホームルーム、イベント等の際に、学生、保護者、教職員に見てもらう。

### ②教員のイメージ改善

- 学校における進路指導等の際に、教員の抱く仕事に対するイメージが、学生に伝播することも想定される。
- 教員は教員免許取得の際に、福祉施設で5日間、介護等の仕事を体験。この体験を通じて介護等の仕事に対するイメージが形成される可能性がある。
- このため、**体験受入施設の職員、教育委員会、学校関係者等からなるWGを立ち上げ、受入施設向けのプログラム例などを作成。**介護等の体験の場を活用したイメージアップを促進する。

### ③介護技術コンテストの拡充

- 介護技術コンテストについて、従来の一般公募に加え、関係団体からの推薦者を新たに追加するとともに、拡大したブロック数による予選会を経て決勝会を行うなど、**コンテスト自体の拡充を図る。**
- また、コンテストの優勝者には1年間、**「みえ介護魅力発信者」として、三重県内の各地の介護イベントに出向いて介護の仕事の魅力を伝えてもらう。**
- 加えて、**決勝戦の様態等を収めた動画・冊子を作成し、県内の介護イベントの際に配布する。**